

2022 年度放射線授業事例コンテスト 放射線授業事例

タイトル	放射線学習における必然性の醸成 ～中学校理科 1 学年での実践～
所 属	札幌市立あいの里東中学校
応募代表者	佐藤 深
対象（校種・学年）	中学校 1 年生
教科・領域・単元	理科・地球及びエネルギー 大地の成り立ちと変化、身近な物理現象
ね ら い	自然災害の学習をきっかけとして放射線の存在を知り、放射線について学習することの必然性を醸成する。
授業での実践	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施
キーワード	放射線、自然災害、自然放射線、放射線の利用
内 容	<p>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）では、3 学年で学習していた「放射線の性質と利用」の内容に 2 学年の「電流とその利用」の中でも触れることになった。また、中学校学習指導要領解説（平成 29 年）における「改善・充実した主な内容」では、「第 3 学年に加えて、第 2 学年においても、放射線に関する内容を扱うこと」「全学年で自然災害に関する内容を扱うこと」とされている。1 学年の「大地の成り立ちと変化」の学習においては、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）による災害の中で、東京電力福島第一原子力発電所の事故についても触れる。その際、放射線の存在について扱うことには必然性がある。ここで放射線に対して正しい認識をもつことができれば、2 学年以降の学習に対しても必然性をもち、主体的に学びが進められるのではないかと考えた。</p> <p>そこで、本実践では、1 学年の「大地の成り立ちと変化」の学習の際に、「身近な物理現象」の学習内容を想起させ、放射線の存在について知るとともに、新たな課題や疑問を醸成することを目指した実践を行った。</p>
参考文献	